

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月8日～9月14日)

2018年9月19日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ独立後最大規模の軍事演習(9月6日～12日)
- 欧州復興開発銀行理事会一行の訪問(9月11日～14日)
- ルカシェンコ大統領がウズベキスタンを公式訪問(9月12日～14日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●北朝鮮「建国」70周年に際して祝電を発出

9月9日、ルカシェンコ大統領は北朝鮮の金正恩国務委員長に対して、同国「建国」70周年に際する祝電を発出した。同祝電には、「朝鮮半島周辺で生じている出来事を全世界が注意深く見守っている。緊張の緩和と対話への移行は、地域における平和と安定の強化を希求する貴委員長の尽力なしでは不可能であった」と記された。

(9月9日付大統領サイト)

●宇宙探検家協会の第31回総会での挨拶

9月10日から15日にかけて、ミンスクで宇宙探検家協会(ASE)の第31回総会が開催された。10日、ルカシェンコ大統領は同総会の開会の挨拶において、ベラルーシはこれまで3人の宇宙飛行士を輩出している他、人工衛星用の高解像度の光学機器、宇宙用の鏡、地球観測用機器を生産し、ロシアと宇宙分野での先進技術の共同開発を行っている旨述べた。さらに同大統領は、ベラルーシが国連宇宙空間平和利用委員会(COPUOS)の正式な構成国であり、対話や平和的なプログラム・プロジェクトに積極的に参加する用意がある旨述べた。

(9月10日付大統領公式サイト)

●保健制度と人材登用における課題に関する会議

9月11日、ルカシェンコ大統領は関係する高官を召集し、保健制度と人材登用における課題に関する会議を開催した。席上、大統領は、昨年来、医療における汚職の件数が大幅に増えているとの情報を得ており、汚職の問題は民間人から軍人、保健省関係者まで、あるいはさらに上までに及んでおり、根絶せねばならないと述べた。大統領によると、これまでに数千億ドルの犯罪資金にまつわる95件の刑事事件が提起され得る根拠が示され、約100人が捜査対象となっている。大統領はまた、罪なき者が処罰されることはないが、汚職に関わった者は引きずり出し、しかるべき場所に送り込む旨述べた。またマラシコ保健大臣に対し、医療機材調達における透明性の確保等、保健分野で明らかになっている問題点を本年中に解決するよう指示した。

(9月11日付大統領公式サイト)

●欧州評議会地方自治体会議議長との会談

9月11日、ルカシェンコ大統領はベラルーシ訪問中の欧州評議会地方自治体会議(CLRAE)のモスラー・テルンストレム議長と会談した。同会談で大統領は、地方自治は現代世界において重要なテーマであり、同分野における欧州評議会の経験に関心を表明した。これに対してモスラー・テルンストレム議長は、今回ベラルーシ共和国院(上院)で実施される円卓会議は地方

自治分野における両機関の協力の始まりであり、互いに学べるがあると応じた。
(9月11日付大統領公式サイト)

●ウズベキスタン公式訪問(9月11日～14日)

9月12日から14日にかけて、ルカシェンコ大統領はウズベキスタンを公式訪問した。

13日、ミルジョーエフ・ウズベキスタン大統領との会談が行われた。1対1の会談では、ミルジョーエフ大統領から、軽工業・農業における協力発展及び油田開発への参加、軍事技術面での協力、ウズベキスタンでのベラルーシの大学の分校の開設が提案された。その後、関係する大臣等を交えた拡大会合が行われ、席上、ルカシェンコ大統領は、両国が相互貿易高を10億ドルに引き上げることや、軍用機材の修理・近代化改修を行うこと、そのための工場をウズベキスタンに開設することで合意した旨述べた。また同大統領は、ウズベキスタン産綿花をベラルーシで加工して第三国へ輸出する合併事業や、両国共同でのアフガニスタン市場への進出についても述べた。首脳会談の後、両首脳による共同声明や、両国の省庁間での協力等に関する合計16の文書が署名された。

(9月13日付大統領公式サイト、国営ベルタ通信)

【外交】

●マラシコ保健大臣が中国国家衛生健康委員会の代表と会談

9月10日、マラシコ保健大臣はベラルーシ訪問中の中国国家衛生健康委員会のチャン・メン代表一行と会談した。同代表は、中国はベラルーシとの医療ツーリズム分野での協力に関心がある旨述べた。9日から、中国の児童グループがベラルーシにおいて20日間のリハビリ治療を受けるプログラムが始まっており、同代表は、今回の訪問の目的はベラルーシの児童治療・リハビリセンターの活動について知り、協力の道筋を付けることだと述べた。マラシコ大臣は、ベラルーシ側は深刻な症状の患者に対する治療

が成功するようあらゆる手を尽くす旨述べた。保健省は、中国から一行に同行している専門家が、小児患者の症状に応じてどの機関に転送すればよいかを見極められるように、複数の医療機関を訪問できるよう手配した。

(9月10日付国営ベルタ通信)

●外務大臣と新ロシア大使の会談

9月11日、バビチ露大使はベラルーシ外務省を訪問し、マケイ外務大臣に信任状の写しを手交した。同大臣は両国間の戦略的な関係の強化に向けて両国がともに活発に取り組むよう期待する旨述べた。会談では、二国間の当面の問題や間近に迫った両国のハイレベルによる政治対話に関する事柄が話し合われ、貿易・経済面での協力強化に向けた措置についても取り上げられた。

(9月11日付外務省公式サイト)

●ペトリシェンコ副首相がユーラシア経済同盟等におけるベラルーシ全権代表に

9月11日付大統領令により、ペトリシェンコ副首相(保健・教育・文化担当)がユーラシア経済評議会、ベラルーシ・ロシア連合国家及びユーラシア経済同盟(EAEU)におけるベラルーシ共和国全権代表、並びに独立国家共同体(CIS)担当の国家調整官に任命された。

(9月12日付国営ベルタ通信、ベラパン通信)

【内政】

●上院議長が中央から地方への権限委譲の可能性について言及

9月12日、ミンスクで地方自治に関する円卓会議が開催された。会議後、共和国院(上院)ミャスニコヴィチ議長は記者団に対し、ベラルーシは28年間、政治・経済・外交で独自の発展を遂げており、ある程度の権限を地方レベルに委譲するための十分な備えができているように思われる旨述べた。

同会議には、ベラルーシ訪問中の欧州評議会地方自治体会議(CLRAE)のモスラー・テルン

ストレム議長一行も出席し、地方自治に関するベラルーシの法律と欧州地方自治憲章との比較や地方自治体のスタッフ養成システムの改善の見通し等につき話し合われた。

(9月12日付ベラパン通信)

●人権団体「春」代表：ベラルーシの人権状況は悪化

9月13日、ワルシャワで欧州安全保障協力機構(OSCE)による人権状況に関する会合が開催され、円卓会議「ベラルーシ：「自由化」の顔をした圧迫」が行われた。席上、ベラルーシ当局によって閉鎖された人権団体「春」(野党系)のベリャツキー代表は、ベラルーシにおける人権状況は悪化するばかりであり、当局は依然として市民団体を圧迫する政策を続けている旨述べた。同代表は、平和的な集会に先だって予防拘禁が行われたり、集会への参加に対して高額な罰金や拘禁等が科されることにより、ベラルーシの一般市民による社会活動や政治活動への参加が迫害されている旨述べた。同代表は、ベラルーシで平和的な集会の参加者が2017年には700人、2018年には112人それぞれ拘束されており、政治的な意図のある刑事事件により2017年には40人、2018年には10人以上が訴追されている旨指摘した。

(9月13日付ベラパン通信)

【治安・軍事】

●独立後最大規模の軍事演習

9月6日から12日にかけて、ベラルーシ共和国が独立して以降最大規模となる軍事演習が行われた。ブレスト、グロドノ、ミンスク、モギリョフ各州の合計6つの演習場で行われた各種演習に、7,500人の兵員、260両の車両、30機の航空機が参加し、陸上部隊と航空部隊の協調行動の他、電子戦用装備、無人航空機(UAV)等の国産装備品を用いた訓練も実施された。同演習にはブルガリア、ドイツ等のベラルーシ駐在各国武官の他、外国からのオブザーバーも視察に招待された。

(9月11日付国営「全国テレビ」、12日付国防省公式サイト、ベラパン通信)

【経済】

【国内経済】

●EBRD 理事会一行の訪問

9月10日から14日にかけて、欧州復興開発銀行(EBRD)理事会一行がベラルーシを訪問した。

11日、EBRD一行は国家投資民営化庁(NAIP)において経済省マトゥセヴィチ次官と会談し、ベラルーシのマクロ経済情勢や投資環境等につき説明を受けた。

12日、EBRD一行はクハレフ副首相(建設・住宅公共サービス・運輸交通担当)と会談した。同副首相は、同行との全面的な協力戦略により、自動車道路や橋梁の改修に向けた融資契約を結ぶことができおり、ベラルーシとしては今後もEBRDとの協力を進めてゆく意向である旨述べた。同副首相は、ベラルーシがEBRDと共同で、民営化に向けた支援として国営企業の経営改善作業に取り組んでいるとした上で、その一環として進められている国内最大級の国営「ベラルーシ投資銀行(ベルインヴェストバンク)」とのプロジェクトにおいて、EBRDが本年にも同行の株式を取得することを期待している旨述べた。また同副首相は、ベラルーシが交通・住宅・公共インフラの改修にあたって引き続きEBRDからの支援を期待しているとした上で、EBRDからの資金により、ベラルーシでは給排水プロジェクトが実施され、暖房、固形ごみ処理に関する新プロジェクトの実施が検討中である旨述べた。

14日、EBRDのバルトゾカス・ポルトガル・ギリシア理事代理は記者団の質問に答え、国別戦略採択後初めての訪問となる今次訪問は極めてよく準備されており、政府、国立銀行(中央銀行)、市民団体、融資先の代表者と面談する機会を持てた。全体像を描くことができた旨述べた。また同理事代理は、マクロ経済情勢やインフレ率の低下は、ベラルーシのビジネス・投資環境が変わってきていることを示している旨述べた。

同理事代理はベラルーシの抱える問題点として、労働生産性と競争力の水準を指摘しつつ、ビジネス界も当局もこうした評価に対してプラグマティックな仕方に対応しているように感じられた旨付言した。

14 日、EBRD ベラルーシ事務所ピヴォヴァルスキー所長は、本年の対ベラルーシ融資額が総額 7 億ユーロ程度となる見込みである旨述べた。EBRD は本年、昨年 1 年間の実績 1 億 6,300 万ユーロを超える合計 16 件、総額 2 億 3,000 万ユーロのプロジェクトに署名している。

(9 月 11 日付経済省公式サイト、12 日、14 日付国営ベルタ通信)

●新たなインフレ対策プログラムの制定

9 月 12 日付閣僚会議・国立銀行(中央銀行)共同決定第 658/12 号により、新たなインフレ対策プログラムが制定された。同プログラムでは、中長期的なインフレ率を 4%程度に抑えること等が規定されている。

(9 月 13 日付ベラパン通信)

●エネルギー分野での新プロジェクト

国家標準化委員会省エネルギー局は、「エネルギー利用における持続性拡大」共同プロジェクト実施のため、ベラルーシが世界銀行と欧州投資銀行(EIB)から 1 億ドルずつ融資を受けることを期待している旨発表した。同プロジェクトの実施は 2018 年から 2022 年にかけての世界銀行グループのパートナーシップ枠組み戦略案に規定されており、集中暖房での燃料の地産地消や住宅部門での省エネルギーの推進を目的としたもので、実施予定期間は 5 年間。

(9 月 13 日付ベラパン通信)

【対外経済】

●ベラルーシ・ウズベキスタン・ビジネスフォーラムの開催

9 月 12 日、ルカシェンコ大統領のウズベキスタン公式訪問の一環として、タシケントで両国ビジネスフォーラムが開催され、輸出入にかかる総額 1 億 9,330 万ドルの契約 82 件が署名された他、総額 3,800 万ドルの投資プロジェクトの実施が合意された。同フォーラムにはウズベキスタンのオタジョノフ副首相、ベラルーシのルスィ副首相の他、両国企業約 500 社、関連省庁の代表者が出席した。

(9 月 13 日付国営ベルタ通信)

(了)